



【南ヶ谷湿地の希少動植物】

赤谷プロジェクトの活動拠点である「いきもの村」に近い大峰山の西側中腹標高千五〇m付近に広さ1.8ha程の小さな湿地があります。南ヶ谷湿地と名付けられたこの湿地とその周辺には、調査を始めた平成19年から平成27年の間で環境省のレッドリスト記載種8種、群馬県のレッドリスト記載種26種など、希少な動植物が多数確認されました。



南ヶ谷湿地

じくらの標高に、モリアオガエルの生息地として有名な大峰沼と古沼があります。大峰山は水を通しにくい地層の上に、割れ目に水を貯水できる溶結凝灰岩の地層が積み重なってできており、西側の南ヶ谷湿地も大峰沼も地層の境界付近から水が湧き出し、さらに地滑りによってできた平坦地に湿原が形成されたものと考えられています。なお、ここは赤谷プロジェクトエリアで唯一の湿地環境となっています。

この湿地は植物が腐らずに積み重なってできた泥炭層によって長い時間をかけてできたものと考えられます。小さな湿地ですが、泥炭層は厚さが5mほどあり、現在は乾燥化が進んでヨシが分布を拡大しています。地元のお年寄りの話では、昔は大きな池だったとのことですが、現在は開放水面がわずかに見られるだけです。

平成24年には、湿地の植生等を痛めない配慮をしながら湿地周辺のスギ林の間伐を実施したほか、湿地内の希少な動植物の生



ヨシ刈り

浚渫作業



ミズチドリ

息環境を保全するため、保全計画に基づき、赤谷プロジェクトサポーターを中心に活動日となる「赤谷の日」にヨシの刈り払いや開放水面に貯まった落ち葉などの浚渫を行ってきました。

この貴重な湿地には、前述のとおり多くのレッドリスト記載種が生息しています。開放水面の植物ではイヌタヌキモ、その周辺のミズゴケ湿地にはアギナシ、コマツカサスキ、トキソウ、ミズチドリなどが生えており、湿地周辺にも貴重な植物が見られます。すべて在来種で、外来種が見られないことも特筆すべき点です。動物では毎年モリアオガエルやクロサンショウウオの産卵が見られます。水辺の生きものでは、ヘイケボタルの乱舞が見られ、ハッチョウトンボ、モイワサナエ、エグリトビ

ケラ、ミネトワダカワゲラ、貝類ではマメシジミといった希少種も確認されました。これらはすべて赤谷プロジェクトサポーターによる調査・保全活動の中で見つけられたものです。

毎年継続している保全活動の成果なのか、減少傾向にあったモリアオガエルやクロサンショウウオの産卵数も回復傾向にあるようです。この貴重な南ヶ谷湿地の動植物とその生息環境を未来に残していくため、赤谷プロジェクトの関係者と協働して調査と保全活動を続けていきたいと思います。



モリアオガエル



クロサンショウウオの卵塊